

平成 28 年 3 月 3 日

隠岐の島町教育委員会  
教育長 山本和博様

町立小中学校規模適正化検討委員会  
委員長 永海治

隠岐の島町立小中学校規模適正化検討委員会への  
諮問について（答申）

平成 27 年 5 月 20 日開催の第 1 回隠岐の島町立小中学校規模適正化  
検討委員会において、教育長から口頭で受けた下記の諮問について、別紙  
のとおり答申します。

記

教育効果の図れる町立小中学校規模の適正化について

# 答 申 書

平成28年 3月 3日

隱岐の島町立小中学校規模適正化検討委員会

## — 目 次 —

### I. はじめに (P1)

- ・経緯 (P1)
- ・隠岐の島町の学校教育の現状と課題 (P1～P2)

### II. 答申事項 (P3)

- ・教育効果の図れる隠岐の島町立小中学校規模の適正化について (P3)
  - (1) 適正規模について (P3)
  - (2) 適正配置について (P3)
  - (3) 今後の施策推進における留意点 (P3～P5)

### III. おわりに (P5)

#### <付属資料>

資料1：隠岐の島町立小中学校規模適正化検討委員会設置要綱

資料2：委員名簿

資料3：検討経過

資料4：隠岐の島町立小中学校の統廃合に関する経過

資料5：学校ごとの児童生徒数の推移（平成27年5月1日現在）

資料6：平成27年度児童生徒数（平成27年5月1日現在）

資料7：学校ごと児童生徒の将来推計（平成27年度～平成39年度）

資料8：隠岐の島町学校通学区域規則の別表

資料9：隠岐の島町立学校学区外就学許可基準

資料10：学区外就学の状況（平成27年6月現在）

資料11：平成27年度各中学校部活動一覧

資料12：小規模校に見られる長所と短所

資料13：小中一貫教育について（知夫小中学校）

資料14：島後小中学校校長会からの意見

資料15：平成27年度県内スクールバス通学距離（最長距離）調べ

資料16：町立小中学校統廃合に関するアンケート調査（保護者用）

資料17：アンケート調査結果集計表（保護者用）

資料18：町立小中学校統廃合に関するアンケート調査（高校生用）

資料19：アンケート調査結果集計表（高校生用）

資料20：学校説明会及び地区懇談会参加者数

資料21：複式学級について

## I. はじめに

### ・経緯

隠岐の島町立小中学校規模適正化検討委員会（以下、検討委員会）は、少子化による児童生徒数が減少している現状から、教育効果の図れる隠岐の島町立小中学校規模の適正化について検討することを目的に、隠岐の島町教育委員会教育長より諮問を受け、平成27年5月20日に設置された。

検討委員会に諮問された事項は、「教育効果の図れる隠岐の島町立小中学校規模の適正化」であるが、具体的には、

- ① 適正規模として1学年あたりの学級数、1学級あたりの児童生徒数について
  - ② 適正配置として学区の見直しや学校の統廃合について
- 上記2点の望ましいあり方を検討することが求められた。

具体的の方策については、検討委員会の答申を受けて教育委員会が検討するため、検討委員会では今後の議論や判断の拠り所となる道筋と展望を示すこととした。子どもたちにとって、どういった学校教育のあり方が最も相応しいのかという視点ばかりではなく、地域も学校とともに長い歴史を刻んでおり、教育は地域社会を支える次世代の人づくりでもあり、隠岐の島町の将来を思う「隠岐びと」を育てる場でもある、という視点も踏まえ検討することとした。

検討委員会はこのことを基本認識とし、平成27年5月から平成28年3月までの間、計9回に及ぶ議論と2地区の地域懇談会を開催し、検討してきた。

【付属資料1～3参照】

### ・隠岐の島町の学校教育の現状と課題

検討委員会ではまず、子どもたちが学校で楽しく学び、豊かな生活を送るための条件は何かということで議論をスタートした。学校の規模や配置に関わる問題は複雑多岐にわたり、多くの問題が相互に関連し合っている。そのため、以下のとおり多面的な観点から検討を行った。

学校基本調査によると、隠岐の島町の児童生徒数は、昭和53年度から昭和63年度までは2,500人程度で横ばいだったが、その後減少を続け、前回の規模適正化計画を策定した平成15年度は1,600人に、その計画が実施された平成22年度は1,100人にまで減少を続けた。その後微減が続き、平成27年度は1,028人となっている。

住民基本台帳人口では、0歳児から5歳児までは、平均すると116名いるので、平成33年度でも児童生徒数は1,023人と今と変わらない人数で推移する。しかし、総数では変わらないが、町部では少しづつ増え、郡部では少しづつ減る傾向が表れて来ている。特に、中条小学校・都万小学校については、1学年平均が10人を切り、複式学級になる年も出始める。北小学校については、現在も複式学級が存在するが、平成30年度より全学年複式学級となる。中学校については、都万中学

校が平成35年度より、全校生徒が20人台に突入するなど、児童生徒数の減少により学校の小規模化が確実に進行する状況にあることを認識し、深刻な問題として受け止めた。【付属資料4～7参照】

学校の役割は、子ども一人ひとりの考え方や興味関心が異なることを前提に、それぞれの思考や探究の方法を見極め、豊かな学びへと導くことである。しかし、学校の小規模化が進行する中、子どもたちの活気やたくましさは失われていないか、友だちや先生との出会い、好奇心や思いやりの生まれる場は十分にあるか、学びにおける切磋琢磨や競い合いの姿はあるか。検討委員会では懸念されるこれらの問題について、学校通学区域規則・学区外就学の状況・小中体連スポーツ大会・小中一貫教育・小規模校の長所と短所・県内のスクールバス通学状況等資料を基に検討を行った。また、小学校長・中学校長とそれぞれ意見交換を実施し、幅広い議論を行った。【付属資料8～15参照】

一方、小規模化は学校だけの問題ではなく、子どもの人間形成や社会性の発達、家庭や地域の在り方にも大きな影響を及ぼす。そのため検討委員会では、学校の小規模化とそれに付随して起こる多様な問題について異なる視点と方法で調査検討を行った。保育所から中学校までの全保護者に対し、「町立小中学校統廃合に関するアンケート調査」を行うとともに、平成22年度に学校統廃合を経験した隠岐高等学校・隠岐水産高等学校生に対してもアンケート調査を実施し、学校統廃合に対する気持ちを確認した。また、学校と地域との関わりは非常に大きいものがあるので、特に児童生徒数が減少傾向の都万地区と中学校規模としては少人数校の五箇地区において、それぞれ地区懇談会を実施し、意見交換と議論を行った。

【付属資料16～20参照】

## II. 答申事項

### ・教育効果の図れる島町立小中学校規模の適正化について

検討委員会では、前項の検討内容を踏まえ、教育効果の図れる島町立小中学校規模の適正化について、総合的議論と意見集約を行った。その結果、検討委員会の総意として、以下のとおり小中学校の適正規模と適正配置の二つの視点で提案し、更に今後の施策推進における留意点を指摘する。

#### (1) 適正規模について

島町立小中学校において、教育効果の図りやすい規模としての1学年あたりの学級数は、小学校・中学校とも1学年1学級以上が望ましい。1学級あたりの児童生徒数は、小中学校ともに10人前後を籍していることが望ましいが、島町の地域性や地理的条件を鑑みて、少人数校の存続もやむを得ない。

#### (2) 適正配置について

上記適正規模を実現するために、小中学校とともに学区の見直しは行わず、現在の学校数を存続することが望ましい。今後、適正規模を下回る小中学校が数校発生することが予想されるので、地域性・地理的条件等を考慮し、次回の計画で検討することが望ましい。

#### (3) 今後の施策推進における留意点

##### 1. 【学校教育・人材育成に対する町としての理念の明確化】

学校規模については、今後も少人数化が予測されるが、学校は「地域活性化」の重要な核でもあり、「島をリードする島びとを育てる」町の理念に基づく「ふるさと教育」の推進のためにも、地域の人々の暮らしと密接に繋がっている現在の各学校を存続していく施策が必要である。学校規模の課題（少子化の課題）は、単独で協議するのではなく、町の「地域の活性化対策」とともに「町の未来を担う『宝』である子どもたちの教育をどう推進するのか」の理念を持ち、検討される事が望ましい。

##### 2. 【存続可能な学校・小中一貫教育の勧め】

今後も存続していく学校のあり方の一つとして、特に小中学校の隣接する地域では、小中一貫教育という選択肢が有効である。小中学校間の児童や教員の交流と連携が行いやすく、合同授業、チームティーチングなど多様な指導方法が期待できる。特に兼務による小中教員の入れ替わり授業は、今後学級減で、教職員定数が削減される学校にとっては、補完機能を果たすことにもなり、大きなメリットとなる。今後の施策推進にあたり、小中一貫校等の新しい形態の

学校運営やそのニーズにあった小中併設の校舎や、小中学校の職員室を一つにするといった教育環境のあり方について、地域の実情や知夫小中学校・布施小中学校の実践など先行事例の成果を踏まえた研究と検討が望まれる。

### 3. 【教育環境・条件の整備】

現在の小学校においては、ふるさと教育や少人数教育が推進されやすい長所があるが、今後の児童数の減少や学年によるばらつきのため、隔年で単式・複式を繰り返さなければならない学校が出てくる。複式学級になった際、殆どの教科・領域で担任が一つの教室内で二つの学年に違う内容を指導する「わたり学習」を行う事になる。担任教員の大きな負担となるため、教頭が担当時数を増やすなどの対応をすれば、今度は学校体制に無理が生じる。その解消のため、県内他町村で行われている町費負担の学習支援員を配置する等の学校支援策を講じることが望ましい。【付属資料21参照】

### 4. 【教育環境の整備】

小中学校の教育環境の整備においては、少人数の良さを残しつつ、多様な意見の交流ができる交流学習を定期的に開催するための情報通信機器の導入やスクールバスの活用等、多様化する教育環境に適合した設備の充実を図るための積極的な施策が望ましい。

### 5. 【保護者、町民の願いを考慮】

学校保護者を対象にしたアンケート調査から、町民の学校教育に対する様々な思い、願い、期待を伺い知ることができた。この調査で得られた自由記述の意見・感想は、今回の答申内容に関わる貴重な資料であり、アンケート調査全体の結果とあわせて今後の施策推進において十分考慮し、参考にすることが望ましい。

### 6. 【現場の声を考慮】

保護者、地域住民への調査に加え、学校教育の現場の声を小中学校校長から聴取したこと、学校現場の現状を知り、適正配置を判断する上で参考となつた。今後の施策推進や、次回計画策定時点でも採り入れることが望ましい。

### 7. 【中間地点での再点検】

住民基本台帳人口では、6年先の平成33年度でも児童生徒数は1,023人と今と変わらない人数で推移する。しかし、あくまで台帳上であり、10年先は尚更不透明である。そこで、様子が分かる5年後を目途に必要であれば、規模適正化基本計画の見直しを実情に合わせ検討することが望ましい。

## 8. 【変化に機敏な対応】

当面は小中学校とともに現在の学校数を存続することが望ましいが、学校によつては小規模化が避けられない状況である。保護者の意見や変化する社会情勢を注視し、今後も機敏な検討することが望ましい。

## III. おわりに

今後、隠岐の島町立小中学校の適正規模、適正配置、その他関連の諸施策を推進するにあたり、貴教育委員会においては、本答申の内容を踏まえ、保護者や地域住民を含むすべての隠岐の島町民に対し問題の説明責任を十分果たし、理解と協力を得て積極的に取り組まれるようお願いする。

## 【資料1】

### 隠岐の島町立小中学校規模適正化検討委員会設置要綱

#### (設置)

第1条 隠岐の島町教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の諮問に応じ、教育効果の図かれる町立小中学校規模の適正化について検討審議するため、隠岐の島町立小中学校規模適正化検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (組織)

第2条 委員会は、8名で組織する。

2 委員は、教育長が委嘱する。

#### (任期)

第3条 委員の任期は、平成28年3月31日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長1名、副委員長1名を置く。委員長は委員の互選によって定め、副委員長は委員長が指名する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

#### (会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の半数が出席しなければ開くことができない。

#### (報酬及び費用弁償)

第6条 委員会の委員に報酬及び費用弁償を支給する。

2 報酬及び費用弁償の額並びにその支給方法は、隠岐の島町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（平成16年隠岐の島町条例第44号）の定めるところによる。

#### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会総務学校教育課において処理する。

#### (委任)

第8条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は別に定める。

#### 附 則

この告示は、平成27年3月1日から施行する。

## 【資料2】

### 隱岐の島町立小中学校規模適正化検討委員会委員名簿

役 職	氏 名	備 考
委 員 長	永 海 治	
副 委 員 長	大 戸 忠 志	
委 員	小 田 泰 史	
委 員	小 谷 茂 雄	
委 員	山 口 克 秀	
委 員	道 坂 博 旨	
委 員	柳 原 忠 正	
委 員	春 木 節 子	

## 【資料3】

### 検討経過

- H27. 5. 20 第1回検討委員会
- ・検討委員会設置要綱の確認
  - ・役員選出 委員長：永海 治、副委員長：大戸忠志
  - ・隠岐の島町立小中学校の統廃合に関する経過
  - ・児童生徒数の推移
  - ・教育長より口頭で諮問  
(教育効果の図れる町立小中学校規模の適正化について)
- H27. 6. 24 第2回検討委員会
- ・学区外就学の状況
  - ・小、中体連等のスポーツ大会
  - ・小中一貫教育
  - ・小規模校の長所と短所
- H27. 7. 29 第3回検討委員会
- ・小中一貫教育
  - ・県内のスクールバス通学状況
  - ・学年別、年度別、男女別の推移
  - ・小学校長との意見交換
  - ・保護者アンケート調査（案）
- H27. 9. 2 第4回検討委員会
- ・小中一貫教育
  - ・県内のスクールバス通学状況
  - ・学年別、年度別、男女別の推移
  - ・中学校長との意見交換
  - ・保護者アンケート調査（案）
  - ・学校統廃合を経験した高校生アンケート調査（案）

- H27. 10. 7 第5回検討委員会  
・保護者アンケート調査結果  
・学校統廃合を経験した高校生アンケート調査結果  
・小学校の適正配置の方針  
・地区懇談会の開催予定
- H27. 11. 20 都万地区懇談会  
都万保健センター、30名参加
- H27. 11. 25 五箇地区懇談会  
五箇生涯学習センター、29名参加
- H27. 12. 1 第6回検討委員会  
・地区懇談会の状況  
・中学校の適正配置の方針  
・今後のスケジュール
- H28. 1. 20 第7回検討委員会  
・答申（案）の検討
- H28. 2. 23 第8回検討委員会  
・答申（案）の検討
- H28. 3. 3 第9回検討委員会  
・答申の最終検討  
・教育長への答申

## 【資料4】

### 隱岐の島町立小中学校の統廃合に関する経過

昭和43年 7月	○隱岐島後教育委員会発足
12月	●第1次学校統合5ヶ年計画策定
44年 7月	布施小学校飯美分校廃校 布施小学校へ統合
45年 3月	中条小学校上西分校廃校 中条小学校へ統合
3月	都万小学校歌木分校廃校 都万小学校へ統合
4月	東郷中学校廃校 西郷中学校へ統合
46年 3月	五箇小学校福浦分校廃校 五箇小学校へ統合
48年 3月	中村小学校伊後分校廃校 中村小学校へ統合
4月	油井小学校を那久小学校油井分校へ変更
49年 3月	西郷小学校港南分校廃校 西郷小学校へ統合
52年 2月	●第2次学校統合5ヶ年計画策定
54年 3月	蛸木小学校廃校 都万小学校へ統合 津戸小学校廃校 都万小学校へ統合 那久小学校油井分校廃校 那久小学校へ統合
	●第3次学校統合5ヶ年計画策定
57年 3月	那久中学校廃校 都万中学校へ統合
61年 3月	久見小学校廃校 五箇小学校へ統合
62年 4月	中条・磯中学校廃校 西郷南中学校へ統合
平成 5年 8月	○西郷町立小学校改築計画策定 (大久(8)、下西(15)、加茂、飯田、中村の順)
14年 7月	島後小中学校再編成検討報告書策定
15年 4月	●島後小中学校規模適正化基本計画策定
19年 4月	下西・今津・加茂小学校廃校 磯小学校へ統合
22年 4月	飯田・大久小学校廃校 西郷小学校へ統合 4月 中村・布施小学校廃校 北小学校へ統合
4月	那久小学校廃校 都万小学校へ統合
4月	中村・布施中学校廃校 西郷南中学校へ統合

## 【資料5】

## 児童・生徒数の推移

学校基本調査(平成27年5月1日現在)

年度 学校名	S43年	S48年	S53年	S58年	S63年	H5年	H10年	H13年	H16年
西郷小学校	694	699	49年統合西郷小	742	658	506	370	355	338
港南小学校	28	45年分校 13	714						
飯田小学校	119	88	68	61	62	70	62	59	44
大久小学校	64	45	27	19	26	18	27	12	10
中条小学校	153	45年統合中条小	121	166	144	106	80	70	70
中条小上西分校	17	125							
有木小学校	57	43	45	90	154	185	131	104	98
下西小学校	84	83	67	88	81	64	69	81	60
今津小学校	76	38	26	28	29	24	16	20	16
加茂小学校	92	59	33	37	63	52	53	39	26
中村小学校	197	48年統合中村小	102	106	88	88	57	55	46
中村小伊後分校	10	134							
布施小学校	64	45年統合布施小	60	44	27	19	23	28	28
布施小飯美分校	6	59							
五箇小学校	271	46年統合五箇小	178	191	61年統合五箇小				
五箇小福浦分校	23	170			165	181	166	146	108
久見小学校	30	20	15	8					
都万小学校	190	45年統合都万小	79	54年統合都万小					
都万小歌木分校	10	130		112	103	128	108	92	83
津戸小学校	48	33	16						
蛸木小学校	45	27	17						
那久小学校	84	51	22	54年統合那久小	22	25	24	13	8
油井小学校	39	48年分校 11	7	13					
小学校 計	2,401	1,828	1,597	1,705	1,622	1,466	1,186	1,074	935
西郷中学校	469	45年統合西郷中	438	419	409	359	263	224	208
東郷中学校	123	439							
中条中学校	157	80	63	63	62年統合西郷南中	236	193	164	143
磯中学校	175	120	78	68	204				
中村中学校	161	89	71	48	56	41	44	28	25
布施中学校	52	33	28	24	25	10	7	11	10
五箇中学校	216	128	89	89	113	85	86	88	86
都万中学校	176	125	91	57年統合都万中	73	71	81	76	58
那久中学校	64	45	37	64					
中学校 計	1,593	1,059	895	775	880	802	674	591	530
合 計	3,994	2,887	2,492	2,480	2,502	2,268	1,860	1,665	1,465

年度 学校名	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年
西郷小学校	301	286	273	297	293	306	285	284	282
飯田小学校	26	23	26	H22統合					
大久小学校	10	11	8	H22統合					
中条小学校	74	76	80	73	69	65	57	58	54
有木小学校	66	71	70	69	80	79	78	76	68
下西小学校	磯小学校								
今津小学校	84	82	83	94	84	74	73	74	68
加茂小学校									
中村小学校	34	33	33	北小学校					
布施小学校	17	16	13	46	45	42	44	52	42
五箇小学校	96	85	74	85	76	83	76	79	85
都万小学校	79	80	71	80	80	79	78	75	73
那久小学校	4	6	7	H22統合					
小学校 計	791	769	738	744	727	728	691	698	672
西郷中学校	190	194	190	188	170	149	146	148	159
西郷南中学校	141	118	103	107	118	133	130	119	121
中村中学校	28	24	16	H22統合					
布施中学校	17	11	9	H22統合					
五箇中学校	61	67	53	46	39	34	44	40	40
都万中学校	51	50	43	37	35	37	37	42	36
中学校 計	488	464	414	378	362	353	357	349	356
合 計	1,279	1,233	1,152	1,122	1,089	1,081	1,048	1,047	1,028

## 【資料6】

## 平成27年度児童・生徒数

平成27年5月1日 現在

学校名	区分	1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			6年生			合計		内種式 知的 自・情 病弱 難聴	特別支援学級数	
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女			
西郷小	通常の学級	22	31	53	20	27	47	22	14	36	26	26	52	24	21	45	21	26	47	135	145	280		
	特別支援学級							1	1	1			1						2	2				
	児童数計	22	31	53	20	27	47	23	14	37	27	26	53	24	21	45	21	26	47	137	145	282		
	通常の学級数	2			2			2			2			2			2			12			1	1
中条小	通常の学級	3	4	7	4	4	8	3	4	7	5	5	10	7	4	11	6	4	10	28	25	53		
	特別支援学級										1	1								1	1			
	児童数計	3	4	7	4	4	8	3	4	7	5	6	11	7	4	11	6	4	10	28	26	54		
	通常の学級数	1			1			1			1			1			1			6			1	
有木小	通常の学級	5	7	12	2	12	14	5	7	12	2	7	9	6	8	14	3	4	7	23	45	68		
	特別支援学級																							
	児童数計	5	7	12	2	12	14	5	7	12	2	7	9	6	8	14	3	4	7	23	45	68		
	通常の学級数	1			1			1			1			1			1			6			1	
磯小	通常の学級	6	2	8	7	7	14	4	8	12	3	6	9	3	5	8	10	5	15	33	33	66		
	特別支援学級				1	1								1	1					2	2			
	児童数計	6	2	8	8	7	15	4	8	12	3	6	9	4	5	9	10	5	15	35	33	68		
	通常の学級数	1			1			1			1			1			1			6			1	1
北小	通常の学級		2	2	4	6	10	1	3	4	6	4	10	6	3	9	2	4	6	19	22	41		
	特別支援学級													1	1					1	1			
	児童数計		2	2	4	6	10	1	3	4	6	4	10	7	3	10	2	4	6	20	22	42		
	通常の学級数	1			1			1			1			1			1			4		2	1	
五箇小	通常の学級	6	7	13	9	5	14	7	8	15	8	7	15	4	3	7	11	8	19	45	38	83		
	特別支援学級													2	2					2	2			
	児童数計	6	7	13	9	5	14	7	8	15	8	7	15	6	3	9	11	8	19	47	38	85		
	通常の学級数	1			1			1			1			1			1			6			1	
都万小	通常の学級	6	4	10	7	3	10	8	5	13	8	5	13	8	4	12	8	5	13	45	26	71		
	特別支援学級				1	1											1	1	1	1	2			
	児童数計	6	4	10	8	3	11	8	5	13	8	5	13	8	4	12	8	6	14	46	27	73		
	通常の学級数	1			1			1			1			1			1			6			1	1
小学校合計	通常の学級	48	57	105	53	64	117	50	49	99	58	60	118	58	48	106	61	56	117	328	334	662		
	特別支援学級				2	2		1	1	1	1	2	4	4	1	1	8	2	10					
	児童数計	48	57	105	55	64	119	51	49	100	59	61	120	62	48	110	61	57	118	336	336	672		
	通常の学級数	8			8			8			7			8			7			46		2	5	4
西郷中	通常の学級	28	25	53	27	25	52	27	26	53										82	76	158		
	特別支援学級	1		1																1		1		
	生徒数計	29	25	54	27	25	52	27	26	53										83	76	159		
	通常の学級数	2			2			2												6			1	
西郷南中	通常の学級	34	14	48	20	18	38	9	20	29										63	52	115		
	特別支援学級	2	2		1	1	2	1	3											2	4	6		
	生徒数計	34	16	50	20	19	39	11	21	32										65	56	121		
	通常の学級数	2			2			1												5			1	1
五箇中	通常の学級	3	4	7	3	9	12	13	8	21										19	21	40		
	特別支援学級																			19	21	40		
	生徒数計	3	4	7	3	9	12	13	8	21										3				
	通常の学級数	1			1			1																
都万中	通常の学級	5	6	11	8	6	14	8	3	11										21	15	36		
	特別支援学級	5	6	11	8	6	14	8	3	11										21	15	36		
	生徒数計	5	6	11	8	6	14	8	3	11										3				
	通常の学級数	1			1			1																
中学校合計	通常の学級	70	49	119	58	58	116	57	57	114										185	164	349		
	特別支援学級	1	2	3	1	1	2	1	3											3	4	7		
	生徒数計	71	51	122	58	59	117	59	58	117										188	168	356		
	通常の学級数	6			6			5												17			1	1
総合計	通常の学級																			513	498	1,011		
	特別支援学級																			11	6	17		
	児童生徒数計																			524	504	1,028		
	通常の学級数																			63		2	6	5

## 【資料7】

## 児童・生徒数推移(H27年度～H39年度)

学 校 名	年 度	1 年 生		2 年 生		3 年 生		4 年 生		5 年 生		6 年 生		合 計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
西 郷 小	平成27年度	22	31	53	20	46	23	14	37	28	54	24	21	45	21	26
	平成28年度	27	22	49	22	31	53	20	26	46	23	14	37	28	21	45
	平成29年度	28	21	49	27	22	49	22	31	53	20	26	46	23	14	48
	平成30年度	22	16	38	28	21	49	27	22	49	22	31	53	20	26	46
	平成31年度	37	17	54	22	16	38	28	21	49	27	22	49	22	31	53
	平成32年度	32	20	52	37	17	54	22	16	38	28	21	49	27	22	49
	平成33年度	26	23	49	32	20	52	37	17	54	22	16	38	28	21	49
中 条 小	平成27年度	3	4	7	4	4	8	3	4	7	5	6	11	7	4	10
	平成28年度	8	7	15	3	4	7	4	4	8	3	4	7	5	6	11
	平成29年度	1	3	4	8	7	15	3	4	7	4	4	8	3	4	7
	平成30年度	5	6	11	1	3	4	8	7	15	3	4	7	4	4	8
	平成31年度	5	5	10	5	6	11	1	3	4	8	7	15	3	4	8
	平成32年度	4	8	12	5	5	10	5	6	11	1	3	4	8	7	15
	平成33年度	3	9	12	4	8	12	5	5	10	5	6	11	1	3	4
有 木 小	平成27年度	5	7	12	2	12	14	5	7	12	2	7	9	6	8	14
	平成28年度	5	5	10	5	7	12	2	12	14	5	7	12	2	7	9
	平成29年度	5	9	14	5	5	10	5	7	12	2	12	14	5	7	12
	平成30年度	13	12	25	5	9	14	5	5	10	5	7	12	14	5	7
	平成31年度	5	11	16	13	12	25	5	9	14	5	5	10	5	7	12
	平成32年度	5	12	17	5	11	16	13	12	25	5	9	14	5	7	12
	平成33年度	13	6	19	5	12	17	5	11	16	13	12	25	5	9	14
磯 小	平成27年度	6	2	8	7	15	4	8	12	3	6	9	4	5	9	10
	平成28年度	3	11	14	6	2	8	8	7	15	4	8	12	3	6	9
	平成29年度	7	8	15	3	11	14	6	2	8	8	7	15	4	8	12
	平成30年度	10	7	17	7	8	15	3	11	14	6	2	8	7	15	4
	平成31年度	7	2	9	10	7	17	7	8	15	3	11	14	6	2	8
	平成32年度	6	7	13	7	2	9	10	7	17	7	8	15	3	11	14
	平成33年度	8	9	17	6	7	13	7	2	9	10	7	17	7	8	15

平成27年7月1日

学校名	年 度	1 年 生		2 年 生		3 年 生		4 年 生		5 年 生		6 年 生		合 計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
北 小	平成27年度	2	2	4	6	10	1	3	4	6	4	10	7	3	10	2
	平成28年度	6	1	7	2	2	4	6	10	1	3	4	6	4	10	3
	平成29年度	1	3	4	6	1	7	2	2	4	6	10	1	3	4	10
	平成30年度	4	4	1	3	6	1	7	2	2	4	6	10	1	3	4
	平成31年度	3	3	4	4	1	3	4	6	1	7	2	2	4	6	10
	平成32年度	1	3	4	3	3	4	4	1	3	4	6	1	7	2	2
	平成33年度	5	5	1	3	4	3	3	4	4	1	3	4	6	1	7
五 間 小	平成27年度	6	7	13	9	5	14	7	8	15	6	3	9	11	8	19
	平成28年度	5	6	11	6	7	13	9	5	14	7	8	15	7	15	9
	平成29年度	9	7	16	5	6	11	6	7	13	9	5	14	7	8	15
	平成30年度	8	4	12	9	7	16	5	6	11	6	7	13	9	5	14
	平成31年度	9	8	17	8	4	12	9	7	16	5	6	11	6	7	13
	平成32年度	7	2	9	9	8	17	8	4	12	9	7	16	5	6	11
	平成33年度	4	9	13	7	2	9	9	8	17	8	4	12	9	7	16
都 万 小	平成27年度	6	4	10	8	3	11	8	5	13	8	5	13	8	6	14
	平成28年度	6	4	10	6	4	10	8	3	11	8	5	13	8	4	12
	平成29年度	2	3	5	6	4	10	6	4	10	8	3	11	8	5	13
	平成30年度	4	4	8	2	3	5	6	4	10	6	4	10	8	5	13
	平成31年度	5	4	9	4	4	8	2	3	5	6	4	10	6	3	11
	平成32年度	9	2	11	5	4	9	4	4	8	2	3	5	6	4	10
	平成33年度	3	5	8	9	2	11	5	4	9	4	4	8	2	3	5

学 校 名	年 度	1 年 生		2 年 生		3 年 生		4 年 生		5 年 生		6 年 生		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男 女 計	男 女 計
西 郡 中	平成27年度	29	25	54	27	25	52	28	26	54	26	54	26	84	76
	平成28年度	21	26	47	29	25	54	27	25	52	21	47	26	77	76
	平成29年度	24	21	45	21	26	47	29	25	54	21	45	21	74	72
	平成30年度	28	26	54	24	21	45	21	26	47	23	47	23	73	73
	平成31年度	23	14	37	28	26	54	24	21	45	21	45	21	75	61
	平成32年度	20	26	46	23	14	37	28	26	54	23	37	21	71	66
	平成33年度	22	31	53	20	26	46	23	14	37	20	26	20	65	71
	平成34年度	27	22	49	22	31	53	20	26	46	21	31	21	69	79
	平成35年度	28	21	49	27	22	49	22	21	53	22	31	21	77	74
	平成36年度	22	16	38	28	21	49	27	22	49	21	49	21	77	59
	平成37年度	37	17	54	22	16	38	28	21	49	21	49	21	87	54
	平成38年度	32	20	52	37	17	54	22	16	38	21	49	21	91	53
西 郡 南 中	平成39年度	26	23	49	32	20	52	37	17	54	20	52	20	95	60
	平成27年度	34	16	50	20	19	39	11	21	32	19	39	11	65	56
	平成28年度	21	17	38	34	16	50	20	19	39	20	44	21	75	52
	平成29年度	24	20	44	21	17	38	34	16	50	21	44	20	79	53
	平成30年度	16	23	39	24	20	44	21	17	38	23	44	20	61	60
	平成31年度	13	22	35	16	23	39	24	20	44	23	39	20	53	65
	平成32年度	18	29	47	13	22	35	16	23	39	22	35	20	47	74
	平成33年度	14	15	29	18	29	47	13	22	35	18	29	20	45	66
	平成34年度	22	24	46	14	15	29	18	29	47	14	23	20	54	68
	平成35年度	14	23	37	22	24	46	14	15	29	22	46	20	50	62
	平成36年度	32	25	57	14	23	37	22	24	46	20	46	20	68	72
	平成37年度	20	18	38	32	25	57	14	23	37	18	38	20	66	66
	平成38年度	16	30	46	20	18	38	32	25	57	18	38	20	68	73
	平成39年度	24	29	53	16	30	46	20	18	38	16	30	20	60	77

学 校 名	年 度	1 年 生		2 年 生		3 年 生		4 年 生		5 年 生		6 年 生		合 計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男 女 計	男 女 計	
五 筒 中	平成27年度	3	4	7	3	9	12	8	21					19	21	40
	平成28年度	11	8	19	3	4	7	3	9	12				17	21	38
	平成29年度	6	3	9	11	8	19	3	4	7				20	15	35
	平成30年度	8	7	15	6	3	9	11	8	19				25	18	43
	平成31年度	7	8	15	8	7	15	6	3	9				21	18	39
	平成32年度	9	5	14	7	8	15	8	7	15				24	20	44
	平成33年度	6	7	13	9	5	14	7	8	15				22	20	42
	平成34年度	5	6	11	6	7	13	9	5	14				20	18	38
	平成35年度	9	7	16	5	6	11	6	7	13				20	20	40
	平成36年度	8	4	12	9	7	16	5	6	11				22	17	39
	平成37年度	9	8	17	8	4	12	9	7	16				26	19	45
都 万 中	平成38年度	7	2	9	9	8	17	8	4	12				24	14	38
	平成39年度	4	9	13	7	2	9	9	8	17				20	19	39
	平成27年度	5	6	11	8	6	14	8	3	11				21	15	36
	平成28年度	8	6	14	5	6	11	8	6	14				21	18	39
	平成29年度	8	4	12	8	6	14	5	6	11				21	16	37
	平成30年度	8	5	13	8	4	12	8	6	14				24	15	39
	平成31年度	8	5	13	8	5	13	8	4	12				24	14	38
	平成32年度	8	3	11	8	5	13	8	5	13				24	13	37
	平成33年度	6	4	10	8	3	11	8	5	13				22	12	34
	平成34年度	6	4	10	6	4	10	8	3	11				20	11	31
	平成35年度	2	3	5	6	4	10	6	4	10				14	11	25
	平成36年度	4	4	8	2	3	5	6	4	10				12	11	23
	平成37年度	5	4	9	4	4	8	2	3	5				11	11	22
	平成38年度	9	2	11	5	4	9	4	4	8				18	10	28
	平成39年度	3	5	8	9	2	11	5	4	9				17	11	28

## 【資料8】

### 隠岐の島町学校通学区域規則の別表

別表第1（第2条関係）

#### 小学校

学 校 名	通 学 区 域
隠岐の島町立西郷小学校	東町、中町、栄町、西町、港町、岬町、荒尾、犬来、飯田 東郷、大久、釜
隠岐の島町立中條小学校	上西、原田、平、池田、
隠岐の島町立有木小学校	有木、城北町
隠岐の島町立磯小学校	下西、西田、今津、加茂
隠岐の島町立北小学校	中村地区、布施地区
隠岐の島町立五箇小学校	五箇地区
隠岐の島町立都万小学校	都万地区

別表第2（第2条関係）

#### 中学校

学 校 名	通 学 区 域
隠岐の島町立西郷中学校	東町、中町、栄町、西町、港町、岬町、荒尾、犬来、飯田 東郷、大久、釜
隠岐の島町立西郷南中学校	上西、原田、平、池田、有木、城北町、下西、西田、今津 加茂、中村地区、布施地区
隠岐の島町立五箇中学校	五箇地区
隠岐の島町立都万中学校	都万地区

## 【資料 9】

### 隠岐の島町立学校学区外就学許可基準

	理 由	許可基準
1	身体的理由	① 障がいや疾患等の理由で、指定校への就学が困難な場合。
2	住居に関する理由	① 転居予定（具体的な計画が確認できるものに限る）であるため、あらかじめ転居先の学区の学校への就学を希望する場合。 ② 増改築等で、一時的に他の学区へ転居する場合。 ③ 他の学区へ転居したが、引き続き従前の学校へ卒業、進級するまで就学を希望する場合。
3	家庭に関する理由	① 小学生で、保護者の勤務等の事情により、帰宅後の保護監督が困難で、下校後の預け先の学区の学校への就学を希望する場合。
4	教育的理由	① いじめ、不登校その他特別な事情により教育的配慮を要する場合。 ② 希望する部活動が指定の中学校にない場合。
5	その他	① 学区外就学をしていた児童が、引き続き当該小学校の学区の中学校への入学を希望する場合。 ② その他特別な事情があり、教育長が、学区外就学が適当と認めた場合。

【資料10】

学区外就学の状況

(平成27年6月現在)

小学校別 学区外就学数			
	指定校	学区外就学校	差
西郷小	13	41	28
中条小	19	4	-15
有木小	22	12	-10
磯小	8	8	0
北小	1	0	-1
五箇小	1	0	-1
都万小	2	1	-1
合計	66	66	0

中学校別 学区外就学数			
	指定校	学区外就学校	差
西郷中	5	23	18
西郷南中	22	6	-16
五箇中	2	0	-2
都万中	1	1	0
合計	30	30	0

小学校理由別 学区外就学数		
理由	番号	数
転居予定	2-1	3
転居後従前の学校に	2-3	13
下校後保護監督	3-1	45
その他特別な事情	5-2	5
合計		66

中学校理由別 学区外就学数		
理由	番号	数
転居予定	2-1	1
教育的配慮	4-1	1
部活動	4-2	6
小学校から引き続き	5-1	22
合計		30

## 【資料11】

## 平成27年度 各中学校部活動一覧

学 校 名	部 活 動 名	人 数			備 考
		男 子	女 子	計	
【西郷中学校】	野球	11		11	
	バスケットボール	21	16	37	
	バレー ボール		16	16	
	卓球	17	9	26	
	ソフトテニス		5	5	
	柔道	10	1	11	
	剣道	13	1	14	
	吹奏楽	9	21	30	
	※相撲(兼)	3		3	※他部活と兼務
(計)		84	69	153	
【西郷南中学校】	野球	18		18	
	バレー ボール	14	20	34	
	卓球	10	17	27	
	ソフトテニス	23	17	40	
	※相撲(兼)	9		9	※他部活と兼務
	(計)	74	54	128	
【五箇中学校】	野球	15	1	16	
	バレー ボール		13	13	
	ソフトテニス	4	7	11	
	※相撲(兼)	10		10	※他部活と兼務
	(計)	29	21	50	
【都万中学校】	ソフトテニス	21	14	35	
	※相撲(兼)	4		4	※他部活と兼務
	(計)	25	14	39	
	(合 計)	212	158	370	

※部活動設置届を提出している部活動のみを記載。クラブ活動は未記載。

※相撲部は他部活動と兼務。4校人数計26名。

## 【資料12】

### 小規模学校に見られる長所と短所

	長 所	短 所
児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いをよく知っているので、協力的な雰囲気の中で学習や生活ができる。</li> <li>運動、文化的な活動など様々な教育活動への参加機会が増え、豊かな経験をすることができる。</li> <li>一人ひとりの能力に応じた指導を受ける機会が多い。(個別指導が充実し、基礎学力の向上が期待できる。)</li> <li>施設や教育機器を十分に使用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団で行う活動が制約を受ける。(学級、児童会、運動など)</li> <li>刺激やよい意味での競争心に欠け、切磋琢磨の機会が少ないとため、向上心が育ちにくい。</li> <li>多様な意見、考え方、生きる力に触れる機会が少なく、学習が深まりにくい。</li> <li>児童一人あたりの負担が大きいことや、絶えず教師の目が気になり息を抜くことができないため、ストレスがたまりやすい。</li> <li>人間関係が固定化する。一度人間関係が壊れると、長期間にわたって継続しがちである。</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人ひとりに教師の目が行き届く。</li> <li>実態把握がしやすいため、一人ひとりの思いや願い、興味・関心の傾向がつかみやすく、その児童に適した支援が考えやすい。</li> <li>児童と教師のふれあいの機会が多い。</li> <li>教職員組織が小さいため、十分に共通理解を図ることができ、一体となった指導体制づくりがしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複式学級となり、指導に困難性が伴う。</li> <li>教員の負担が大きくなり、学校経営上困難性が生じる。</li> <li>それぞれの教科や行事の特性を十分に發揮できない。</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域全体が学校に対して協力的であり、学校と家庭や地域社会との連携が図りやすい。</li> </ul>	

## 小規模学校に見られる長所と短所及び大規模校と小規模校の特長

	長 所	短 所
児童	<p>①お互いをよく知っているので、協力的な雰囲気の中で学習や生活ができる。</p> <p>②運動、文化的な活動など様々な教育活動への参加機会が増え、豊かな経験をすることができる。</p> <p>③一人ひとりの能力に応じた指導を受ける機会が多い。(個別指導が充実し、基礎学力の向上が期待できる。)</p> <p>④施設や教育機器を十分に使用することができる。</p>	<p>①集団の中で自己主張をしたり、他社を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい</p> <p>②児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい</p> <p>③協働的な学びの実現が困難となる</p> <p>④教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある</p> <p>⑤切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい</p> <p>⑥教員への依存心が強まる可能性がある</p> <p>⑦進学等の際に大きな集団への適応に困難をきたす可能性がある</p> <p>⑧多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい</p> <p>⑨多様な活動の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい</p>
学級数に関する視点	<p>①児童生徒同士の人間関係や児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる</p> <p>②児童生徒を多様な意見に触れさせることができる</p> <p>③新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができる</p> <p>④クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる</p> <p>⑤学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる</p> <p>⑥学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることができます</p> <p>⑦指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる</p>	<p>①クラス替えが全部又は一部の学年でできない</p> <p>②クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない</p> <p>③加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい</p> <p>④クラブ活動や部活動の種類が限定される</p> <p>⑤運動会・文化祭・遠足・修学旅行等集団活動・行事の教育効果が下がる</p> <p>⑥男女比の偏りが生じやすい</p> <p>⑦上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる</p> <p>⑧体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる</p> <p>⑨班活動やグループ分けに制約が生じる</p>

	長 所	短 所
		<p>⑩協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる</p> <p>⑪教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる</p> <p>⑫生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける</p> <p>⑬児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる</p> <p>⑭教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる</p>
教職員数の視点		<p>①経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる</p> <p>②教員個人の力量への依存度が高まり教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある</p> <p>③児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる</p> <p>④チーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる</p> <p>⑤教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない</p> <p>⑥学年によって学級数や学級あたりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生ずる</p> <p>⑦平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる</p> <p>⑧教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい</p> <p>⑨学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある</p> <p>⑩免許外指導の教科が生まれる可能性がある</p>

	長　所	短　所
		⑪クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる
地域	<p>①地域全体が学校に対して協力的であり、学校と家庭や地域社会との連携が図りやすい。</p> <p>②地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災・保育・地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っている</p>	

## 【資料 13】

知夫小中学校

### ○教職員の人数・配置

校長 1名 教頭 2名（小中 1名ずつ）

小学校職員 6名、中学校職員 7名、小中兼務職員 7名 です。（教頭含む。）

### ○教育課程の状況

小中兼務教員の授業は、中数学と小算数・小家庭、小音と中音 です。

正式ではありませんが、小学校複式学級の「わたり」解消のため（特に低学年）、中学校教員が小学校授業に入っています。低学年国語・算数は単式学級と同じような授業をしています。

また、教員の手が多い方がよい授業には、小中で授業に入り合っています。（空き時間教員が）

学校行事・職員会議等、精選見直しして、小中合同、小中別を区別してやっています。

課外活動（陸上練習等）は小中別ではなく小中教員全員で指導します。

### ○小中一貫教育のメリット

・一貫した学びができる。

・教育目標・経営方針・カリキュラム・活動や行事・指導体制→統一性・系統性のある指導  
保→小：小1プロブレム、小→中：中1ギャップ、いじめ・不登校の解消

・小中で共通した指導・取組ができる。指導が行き届く。

生徒指導面（あいさつ・言葉遣い・スリッパ）・学習指導面（学習の規律・授業改善）

・子どもの発達に応じた指導ができる。

子どもの実態（現状）で、小1～4年、小5～中1年、中2～3年での指導

・上級生（特に中3年）の変化。小学生の手本。頼りにされている、責任の自覚。

・教員の意識の変化。職員室が一つになって → 小中お互いの文化を理解、学び合う。

### ○小中一貫教育のデメリット

・特に感じない。

しいて挙げれば、小高学年のリーダー性か。

意図的に、小高学年がリーダー性を發揮できる場をつくる。

## 【資料 14】

島後小中学校校長会

### 学校統合のメリット デメリット、島後小中校長会での意見、対策案

#### ① 校長会として考え得る学校統合のメリット デメリット

◎メリット大 ○メリット ●デメリット大 ・デメリット

統合した場合	統合しない場合
<p><b>&lt;小学校&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●低学年、中学年は特に身近な地域での学習が必要だが、広範囲になりできなくなる。</li> <li>・一斉指導が増え、受け身的な学習になりがち。</li> <li>○とりあえず、複式学級にならず、単式の指導が継続する。（将来は分からぬ。）</li> <li>・小中連携が分断され、小中の切磋琢磨が薄くなる。中学生が生活の目標を持ちにくくなる。小学生も手本が見られなくなる。</li> </ul>	<p><b>&lt;小学校&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な地域での学習で地域を知り、愛着を感じる「ふるさと教育」が有効にできる。</li> <li>○より主体的な学習スタイルを作りやすい。</li> <li>●複式学級になったり、ならなかったりする。（A B 年度方式の指導ができない、体・音・図・道・学・総以外は全て「渡り」方式の指導になる。何らかの対応が必要。）</li> <li>○小中連携が進むと、中学生が育ち、小学生の良き手本になる。（布施、都万の例）中学生の意識も高くなる。</li> </ul>
<p><b>&lt;中学校&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動の選択肢が増える。自分の能力を伸ばす意欲がわく。したいことができる。ただし、今後は比較的規模の大きい学校でも、部活動の数は減る。</li> <li>・個々の部活動の取り組みになりやすい。指導者の力量や熱意に大きく左右される。</li> </ul>	<p><b>&lt;中学校&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動が固定的になる。苦手な者もしなければならない。</li> <li>○部活動の目的は、「人づくり」である。学校全体での部活動指導ができ、まとまりのある指導ができる。生徒数が減っても個人種目が基本の部活動でやっていける。</li> </ul>
<p><b>&lt;全 体&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●きめ細かな指導がしにくい。</li> <li>○多様な考え方触れやすい。</li> <li>●学校との距離が極端に遠い子ができ、通学時間がかなり長くなる子がいる。</li> <li>○友だちの選択肢が増える。合う友だちができやすい。</li> <li>●これまで進めてきた「ふるさと教育」を体験的に学ばせる事が非常に困難になり、ふるさとに愛着を感じさせる事が難しい環境になる。</li> <li>●地域での保小中連携ができなくなる。（都万地区は保小中連携が進み、中学生が小学生の手本となっている。）</li> <li>●教職員が大きく減少し、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・切磋琢磨が少なくなり、資質向上が期待しにくくなる。学力にも影響が懸念される。</li> <li>・人事異動も幅が無くなり、固定化された指導体制になる。</li> <li>・「隠岐で教員になりたい」若者の進路が極めて狭くなる。</li> <li>・地域の経済効果が大きく下がる。</li> </ul> 等が懸念される。 </li> </ul>	<p><b>&lt;全 体&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○きめ細かな指導がし易い。少人数教育の良さ。</li> <li>・多様な考えに出会いにくい。（指導の工夫ができる。）</li> <li>○学校への距離が近く、通学時間が短い。</li> <li>●固定化された人間関係になりやすい。</li> <li>○ふるさとに愛着を感じさせる「ふるさと教育」が推進しやすい。ふるさとを愛する子どもを育てやすい。</li> <li>○地域での保小中連携が進められ、9～12年間で子どもを一貫して教育し、地域に貢献しようとする人材や、自分の置かれた場で、新たなものを開拓する人材を育てやすい。</li> <li>○教職員数がある程度保障され、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究会の活性化が図れ資質向上の可能性が広がる。結果、学力も向上しやすい。</li> <li>・人事交流も保障され、学校体制の変革につながりやすい。</li> <li>・隠岐出身の教員志望の枠が、ある程度保障される。結果、「ふるさと教育」の推進につながる。</li> <li>・教職員に限って言えば経済効果は維持される。</li> </ul> </li> </ul>

## ② H 27. 7. 8 第2回島後小中校長会総会での意見（概略）

（殆どが「学校統合はデメリットが大きい、これ以上統廃合すべきでない」という立場）

- 私たちは、隠岐の現在の課題である「少子化」「高齢化・後継者不足」「若者の島離れ」へ対応すべく、「隠岐が好き、隠岐で暮らしたい・働きたい・隠岐を何とかしたい・更に良くしたい」と思う若者を育てる事、つまり「隠岐びと」を育てるべく、これまで以上に「ふるさと教育・将来の隠岐びとになる人材育成」を意識して学校教育を進めている。これ以上の学校統合は、それに逆行するデメリットの大きい措置であると考える。
- そもそも「学校統廃合」を、単なる「個別の町の課題」と捉えるのではなく、「町の総合的な将来に渡る課題」と捉え、人口減少、地域の活性化、産業振興や雇用等の問題と共に議論してほしい。
- 各地域の学校は、地域の活性化の元であり、無くなると、地域の火が一気に消える。布施、飯田・東郷、加茂、今津地区など、学校の廃校で、明らかに寂しくなった。各地区で子どもを出産する年代の若者は、学校が無くなれば各地域に住まなくなる。それも地域振興に逆行する。私達の初等教育で考える「地域」は、隠岐全域ではなく、生まれ育ったそれぞれの地区である。子どもたちも地区の「ひと・もの・こと」から学ぶことで地域への愛着を持ち、地域の一員としての自覚を高め、地域に貢献しようとする態度が生まれる。学校統合は、町の地域振興策にも逆行していると考えている。
- 私達は、極小規模校に勤めた経験もそれぞれあるが、大きなデメリットを感じたことはない。むしろ、布施小中学校のように、中学3年生の時点での生徒の育ちに自信を持ち、ふるさとに帰って貢献したいという子どもたちが多く育った事を大きなメリットとして、誇りとして感じている。実際多くの子どもたちが島にUターンしている。例えば、各地区の相撲参加者などは、学校統合になれば意識が薄れ、時間的にも参加が厳しくなる。学校統合は地域とのつながりを感じる機会から子どもたちを遠のけることになる。小規模でデメリットと言われる点は、十分工夫で補っていけるものであると考える。さらに町としての将来へのビジョンを持って、これを堅持するための学校支援があれば、なお一層学校は、隠岐の島町に貢献できる人材の育成（「隠岐びと」の育成）に力が注げる。
- 統合で、中学校の部活の選択肢が少なくなる、というのはこれまでにも多くの学校であった問題で、今の課題ではない。少人数なりにできる部活はあり、学校で一つの部活指導になって、学校としてのまとまりもできるメリットもある。「どうしても」という子どもたちへの道は、「校区外」という方法が保障されている。
- 学校規模に対し、「適正化」という見方、考え方は、一般的・都会的発想であり、これまでの隠岐の少人数教育の良さや、その価値まで薄れさせてしまうものであると考える。少人数教育こそ「人格」の育成という点で大いに認められるべき。
- 前回（H22）、前々回（H19）の学校統廃合だけで、合わせて60人強の教職員が減った。現在の隠岐の島町の教職員は、小学校103人、中学校58人で、計161人。仮に中学校が2校になると、中学校教員は西郷南中や西郷中の教員数は、学級数として増えないので、23人減の35人となり、教科担任制の中学校では、教科教員が2名ずつとなる。隠岐全体合わせても島前3人、島後2人の5人である。現在でも厳しくなっている教員の資質向上のための隠岐小中学校教育研究会の活動は停滞し、機能しなくなるであろう。教員の資質向上は厳しい状態となる。学校経営、学校運営の面からも人事交流が限られ、動きが悪化することが想定される。
- 更に、小学校の統合にも及ぶと、教職員の数はますます減り、隠岐の経済の活性化にも少なからず影響は出てこよう。
- 学校の維持費の問題から考えても、教職員の給与は、国、県より支払われ、学校数により国からの補助金も出ているはずである。（学校が減れば、補助金も減る。）校舎施設の建設費、改修費を除くと、ランニングコスト上は、町費へ予算への圧迫は少ないのでないか。
- ただ単に児童生徒数が減ったから、学校を統廃合する、という考え方では、隠岐は生き残っていけない。私達は、将来「子どもがいなくなつて、住む者がいなくなる隠岐」への危機感を持ち、「隠岐の島町の宝」として、子どもたちの教育に携わっている。これ以上、地域から学校を減らしては、隠岐は終焉を迎える、という危機感がある。学校を減らしてはならない。何としても、今の子どもたちのできるだけ多くを、一度は他地域を経験したとしても、隠岐にUターンして隠岐の活性化を担ってくれる子どもたちに育てねばならない。町自身がこだわって、そういう将来へのビジョンを持ち、教育に理念を持って当たってほしい。
- 保護者は、少ない子どもたちの数を示されると、不安が募り、「子どもがかわいそう」と言う意識が強くなると思われる。我々も地域での教育の良さ、ふるさと教育の良さ、少人数教育でも子どもが育つ良さをもっと伝えねばならない。
- 例えば、現在都万には、小学校1年1名、中学校1年1名に蔵田から通学する児童生徒がいる。那久からも、小学生7名、中学生3名が通学している。仮に都万中が、西郷南中か西郷中に統合となれば、蔵田、那久を出て、各地区を経由して中学に通学というのは、あまりにも遠い。帰りも部活後となるとかなり遅くなり、子どもたちの負担は大き過ぎる。こういう子どもたちが、小さな地区にいてこそ隠岐であり、隠岐の良さであると考える。

### ③ 各校長の私見として（特に寄せられたもの）

A校長

学校はだれの物かという議論が必要だと思う。

子供の物・・・勉強ができる環境があればよいように思う。ある程度少人数でも、教育を工夫をすれば、学力もつくし、社会性も養える。ここは、教育内容の工夫や教育委員会の支援、地域の協力、教職員の努力で補える部分でもあるように思う。

地域の物・・・統廃合を経験して、地域にとって学校は「太陽」であったように思う。なくなつて初めて、その必要性に気づくことができた。現に学校がなくなった地域の衰退は目に余る物がある。

学校は地域の物であるという観点に立つと、学校統合におけるメリットは一つもないように思う。デメリットは枚挙にいとまがない。究極は「学校がなくなる」＝「地域がなくなる」と言うことだと思う。複式が子供の教育にとっていかがなものかではなく、複式にさせないような施策を町は考えるべきではないか。（住宅建設や産業の創出、IUターン者の定住、特色ある学校作り等々）

また、学校に隠岐の将来を託すという視点も必要ではないか。ふるさとに帰ってくる、または、地域を出ても隠岐を思う子供たちがいなければ将来の隠岐はない。そんな子供を育てるのは地域にある学校だけである。そんな教育は、地域の人とつながっていなければできない。総合振興計画の「島をリードする隠岐びとが育つまち」の隠岐を愛する心を育てるため、地域社会と連携した「ふるさと教育」の推進のためにも、町の総合行政として教育をしっかりとと考えてビジョンを示すべきではないだろうか。（総振では、学校規模の適正化もうたってあるが目的は「適正な集団生活の中で学習すること」なので、教育を工夫すれば解決の方法があるようにも思う。）

B校長

デメリットへの対応（提言）

（現在の学校数を堅持する立場で 将来を見据えたビジョンとして）

「隠岐の教育」として、将来を見据えた視点で以下の2点を大切と考え（町としてのビジョンにしたい。）、現在の学校数を堅持する立場をとる。

- 1 ふるさと教育を大事に推進し、ふるさと隠岐（隠岐の島町）を愛する子どもたちを育て、ゆくゆくは「隠岐のために隠岐で働きたい」「隠岐を離れても隠岐を誇りに思う」というような「グローカル」な「隠岐びと」となる子どもたちを育成したい（隠岐の教員の願い・使命）そのためには、義務教育の時期は、地域に根ざした学校の現在の配置を堅持する。
- 2 「隠岐の子どもらの『豊かな感性や理性』、『生きる力』」が育まれる教育を推進していくたい。その為にも、現在ある学校は堅持し、教職員の今後の切磋琢磨・資質向上が図れる環境を残していく。

その上で、「学校統合しないこと」によって生じるデメリットを克服するため、以下の点を提言する。

提 言（1）五箇・都万は中学校を残し、「自立し、その上で地域に貢献する人材育成をめざした」小中一貫教育を進め、9年間を見通したカリキュラムづくりを推進し、モデルとなり、町内外に広める。（布施の小中一貫教育の理念や手法を生かす）

○学校経営方針は、小中のすりあわせをする。（若しくは校長を1人とする。）

○小中一貫したカリキュラムを作成し、「キャリア教育」「ふるさと教育」を柱にした「グローカルな人材を育成する」教育を推進する。

○職員室は、小中の壁を取り払うため、一つにする。（若しくは、同等の案を練る。）

○小中教員は、兼務発令をし、互いの指導に行けるようにする。

○小学校中高学年から、教科担任制を積極導入し、中学校教員が指導に入る。（中1ギャップ解消にも効果有り）

○中学校道徳には、小教員も指導に入る。専門性の高い小教員は中学校の教科担当もある。

○総合的な学習は、前期（3, 4年生）中期（5, 6年生と中1生）後期（中2、3生）に分け、小中の教員で指導する。

○上記を可能にするため、小中の授業開始時刻を揃えるよう工夫する。（布施小中学校の例）

○職員会は、小中合同を基本とし、小中別は、できるだけ月1程度にする。

○課外活動は、指導可能なものがチームを組み、指導する。  
など

提 言（2）小中学校とも少人数教育の良さを残しつつ、多様な意見の交流ができる交流学習を近隣の学校と定期的に仕組んでいく。（PCソフト「スカイプ」等による学校間交流授業、スクールバスの予算措置）

提 言（3）中学校部活動は、近隣の学校等で連携し、スクールバスの有効利用により、各学校の枠を越えて、できるだけ多くの部活動に参加可能な体制を構築する。困難な部分は、保護者の協力を得る事も考慮する（校区外通学許可と同様の考え方）。島後合同チームでの大会参加を視野に入れる。指導者は、可能な者が学校の枠を越え、チームで指導にあたる。外部指導者の協力も積極的に認めていく。社会体育での活動も、部活動として認める方向で推進する。

提 言（4）小学校の隔年複式（毎年、全教科『渡り』）のような状況への対応に、県費の加配を求めていく。できない場合は、町単独の加配教員を配置してもらい対応する。（鳥取県は複式解消に県費負担の加配教員を配置し、複式学級の解消を進め、0であると聞いている。）

※ 提言1が可能になれば、五箇、都万地区は複式の解消が可能である。

提 言（5）西郷南中校区では、小学校5校、中学校1校であり、小中の距離が遠いこと、子どもたちの中学校までの距離が遠い地区がすでに存在することから、現在も進めている一小間、小一中間連携を密に行い、提言（2）（3）（4）の強化・導入に加え、更に五箇・都万の小中一貫教育の良さを生かして「グローカル」な「隠岐びと」の人材育成を推進していく。

中学校を4校から2校に統合すれば、

① 少子化にますます拍車がかかります。

就学児をもつ家族は、五箇・都万に住みにくくなります。旧布施村がそうであるように「限界集落」化は学校統合と無関係ではありません。少人数でもいいから子どもがいることが、どれほど地域を元気にすることか。学校がなくなってから、旧布施村内の町営住宅（元村営住宅）の子どもを持つ家族の数はどうなったのでしょうか。五箇・都万地域の「限界集落」化を進めてはなりません。統合の影響による少子化、「限界集落」化は、町の戦略に逆行するものです。

② 特に隠岐の各地の文化が失われます。

隠岐の文化は、基本的には各集落や旧町村単位で育まれ、その集合体が隠岐の文化となっています。小中学校における現在の「ふるさと教育」は、その多くが旧町村単位の内容を旧町村単位の地域講師を活用して学習しており、それによって身近な「ひと・もの・こと」に学んで郷土を愛し、郷土の未来を展望する生徒を育ててきています。そうしたことから、隠岐の中学校7校とも、将来は隠岐で暮らしたいという生徒が確実に増加していることが分かっています。

(ふるさと教育が行われていなかった一昔前は、よそへ出るもんだというのが普通でした。)

統合すれば、すでに失われつつある旧布施村、中村地域に加え、旧五箇村・旧都万村を活用した学習がなされにくくなり、「ふるさと学習」の身近さが次第に遠ざかっていくことになります。隠岐世界ジオパークを売りにする町の戦略に逆行します。

③ 子どもたちの豊かな情緒が失われます。

集落単位、旧町村単位の文化は、子どもたちの心の発達に大きく関係します。例をあげれば、相撲、牛突き、民謡、祭などです。子どもたちの豊かな情操に、地域文化とそれを担う地域の人々との関わりは欠かせません。また、幼児や小学生がモデルとする中学生を見ることができなくなります。統合は、中1ギャップが起こる条件をつくるようなものもあります。これも、隠岐を担う子どもを育てようとする町の戦略に逆行します。

【資料15】

H27年度 県内スクールバス通学距離(最長距離)調べ

No	市町村名	学 校 名	地 区 名	距 離(片道km)	時 間(分)	備 考
1	松江市	美保関小学校	軽尾	16.5	34	
2	浜田市	国府小学校	有福	12.2	15	
3	出雲市	平田中学校	唐川	13.2	26	
4	大田市					※巡回バス
5	安来市	布部小学校		9.1	14	
6	江津市	桜江中学校	長谷	9.3	14	
7	雲南市	掛合小学校	波多	17.1	23	
8	飯南町	頓原中学校	角井	21.0	30	
9	川本町	川本小学校	三原	15.0	20	
10	美郷町	邑智小学校	酒谷	11.8	13	
11	邑南町	羽須美中学校	長田	19.0	39	
12	津和野町	日原小学校	左鎧	9.0	14	
13	吉賀町	柿木小学校	樋谷	11.9	25	
14	海士町	福井小学校	崎	8.2	23	
15	西ノ島町	西ノ島小学校	宇賀	8.0	16	
16	隠岐の島町	西郷南中学校	卯敷	18.3	50	
〃		西郷南中学校	伊後	17.9	43	※参考
〃		都万中学校	蔵田	12.8	41	※参考
〃		西郷小学校	大久	10.0	22	※参考
〃		西郷南中学校	蔵田	24.5	68	※想定

## 【資料16】

### 町立小中学校統廃合に関するアンケート調査

#### －ご協力を願いします－

保護者の皆さんには、日頃から隠岐の島町の教育行政に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、隠岐の島町では少子化による児童・生徒の減少から、教育効果の図れる小中学校の在り方を考える「町立小中学校規模適正化検討委員会」を立ち上げ、検討を始めました。その資料にするため、今回保育所・小学校・中学校の保護者の皆さんにアンケート調査のご協力を願いすることいたしました。

お忙しいところ、誠に申し訳ありませんが、調査の目的・趣旨をご理解の上、率直なご意見をお聞かせ頂きますようお願いいたします。

なお、勝手ながらアンケート用紙を9月9日（水）までに各保育所、小中学校へ提出をお願いいたします。

※ご家庭に対象のお子さんが複数おられる場合、アンケート用紙が重複する  
と思いますが、提出は1枚のみで結構です。

平成27年8月

隠岐の島町教育委員会

次の各問について、あてはまる答えの番号に○をつけてください。

【問1】あなたやご家庭のお子さんの事について、お尋ねします。

① あなたの性別はどちらですか。

1. 男性      2. 女性

② あなたの年齢はおいくつですか。

1. 20歳から29歳      2. 30歳から39歳      3. 40歳から49歳  
4. 50歳から59歳      5. 60歳以上

③ あなたのお住まいの地区は、どの小学校区ですか。

1. 西郷小学校区      2. 中条小学校区      3. 有木小学校区  
4. 磯小学校区      5. 北小学校区      6. 五箇小学校区  
7. 都万小学校区

④ あなたのお子さんについて、あてはまる全てに○をしてください。

1. 小学校入学前の乳幼児      2. 小学校の児童      3. 中学校の生徒

#### 【問2】

① 小学校及び中学校で1学年あたりの学級数はどの程度が良いと思いますか。

(小学校) 1. 2学級以上      2. 1学級      3. 複式学級(2学年1学級)

(中学校) 1. 3学級以上      2. 2学級      3. 1学級

② ①で選んだ回答の理由として、あなたの考えに近いものはどれですか。  
1~17の中から、それぞれ3つまで選んで番号をお書きください。  
(小学校) ⇒ ( ) ( ) ( )  
(中学校) ⇒ ( ) ( ) ( )

1. ゆとりある教育が受けられる
2. 部活動の選択の幅が広がる
3. 活動の機会がたくさんある
4. 競争意識が働き高めあえる
5. 多様な学習活動が展開できる
6. 子どもの活躍の場ができる
7. いつでも子ども達一人ひとりを教員に見てもらえる
8. 子どもが多くの教員に関わる事ができる
9. 個別の対応がよくできる
10. 専門教科の先生に教えてもらえる機会が増える
11. 異学年の友達ができる
12. 多様でたくさんの友だちができる
13. 子ども同士が親密になれる
14. 友だち関係が固定化されない
15. なじみの友だちと安心して生活できる
16. 協調性を養う機会に恵まれる
17. その他 ( )

【問3】 近年、わが町では児童生徒が減少し、学校の小規模化が進んでいます。  
今後の対応で、あなたの考えに一番近いものはどれですか。

1. 現行のままの学校配置でよい。
2. 小規模校を対象に、近隣の学校と統合すべきである。
3. 全ての学校を対象に、通学区域の見直しや統合をすべきである。
4. その他 ( )

【問4】 小学校の統合を進める基準として、1学級の人数から見た場合、  
どの程度の人数となった場合に統合したら良いと思いますか。

- |          |          |            |
|----------|----------|------------|
| 1. 1人のみ  | 2. 3人以下  | 3. 5人以下    |
| 4. 7人以下  | 5. 10人以下 | 6. 15人以下   |
| 7. 20人以下 | 8. 30人以下 | 9. その他 ( ) |

【問5】 中学校の統合を進める基準として、1学級の人数から見た場合、  
どの程度の人数となった場合に統合したら良いと思いますか。

- |          |          |            |
|----------|----------|------------|
| 1. 1人のみ  | 2. 3人以下  | 3. 5人以下    |
| 4. 7人以下  | 5. 10人以下 | 6. 15人以下   |
| 7. 20人以下 | 8. 30人以下 | 9. その他 ( ) |

\*学校の統廃合に対する意見等、自由に記入をお願いします。

以下は、平成19年4月に統廃合となった学校（下西小、今津小、加茂小）、及び平成22年4月に統廃合となった学校（飯田小、大久小、中村小、布施小、那久小、中村中、布施中）の通学区域にお住まいの方にお聞きします。

**【問6】** 学校が統廃合されたことについて、どのように思われますか。

1. 良かった
2. どちらかと言えば良かった
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えば良くなかった
5. 良くなかった

**【問7】** 以下の①～⑬の項目について、学校統廃合前と比べて現在の状況は、どのように思われますか。次の選択肢ア～オから該当するものを選び、（ ）に記入してください。

- (選択肢) ア. そう思う  
イ. どちらかと言えばそう思う  
ウ. どちらとも言えない・分からぬ  
エ. どちらかと言えばそう思わない  
オ. そう思わない

- |                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| ①様々な個性を持つ多くの友達と触れ合うことができている。     | ( ) |
| ②良い意味で競争心が芽生え、子どもの学習意欲が高まった気がする。 | ( ) |
| ③学級規模が大きくなり、社会性を身につける機会に恵まれた。    | ( ) |
| ④学校規模が大きくなり、色々な役割分担を経験できる。       | ( ) |
| ⑤運動会や学習発表会において、子どもの活動の幅が広がった。    | ( ) |
| ⑥友達が増えたことにより、子どもが活発になった気がする。     | ( ) |
| ⑦遠距離通学となり、登下校の安全が心配である。          | ( ) |
| ⑧地域の核となる学校がなくなり、地域の活気がなくなった気がする。 | ( ) |
| ⑨学校との距離が遠くなり、学校への関心が薄くなつた。       | ( ) |

(以下は、統合に伴い新たにスクールバス通学となった児童生徒の保護者の方のみ回答願います。)

- ⑩スクールバス通学となり、登下校の安全が確保されている。 ( )
- ⑪スクールバス通学となり、今までより規則正しい生活ができる。 ( )
- ⑫スクールバス通学となり、体力の低下が心配である。 ( )
- ⑬スクールバス通学となり、時間的規制がかかり自由な時間が減った。 ( )

\*近年統廃合を経験され、良かったことや悪かったことがありましたら、  
自由に記入をお願いします。

◎アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

【資料17】

## 町立小中学校統廃合に関するアンケート調査結果集計表

アンケート回答数

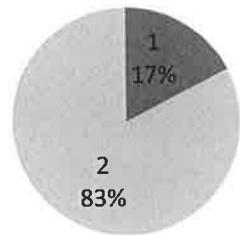
No.	カテゴリ	枚数
1	配布数(子どもの数)	1463
2	回答数(※)	760 (1019人)

(※)各家庭1枚のみ回答

【問1】①回答者性別

No.	カテゴリ	件数	%
1	男性	132	17
2	女性	628	83
	計	760	100

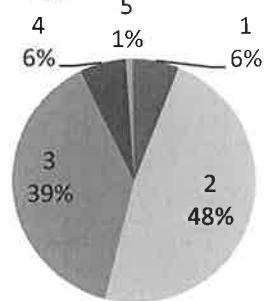
【問1】①性別



【問1】②回答者年齢別

No.	カテゴリ	件数	%
1	20~29歳	47	6
2	30~39歳	364	48
3	40~49歳	295	39
4	50~59歳	47	6
5	60歳以上	7	1
	計	760	100

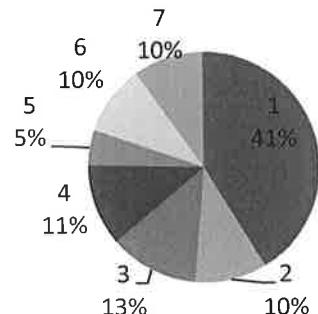
【問1】②年齢別



【問1】③学区別

No.	カテゴリ	件数	%
1	西郷小学校区	314	41
2	中条小学校区	77	10
3	有木小学校区	95	13
4	磯小学校区	86	11
5	北小学校区	38	5
6	五箇小学校区	75	10
7	都万小学校区	75	10
	計	760	100

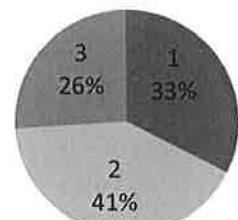
【問1】③学区別



【問1】④子どもの種別

No.	カテゴリ	件数	%
1	就学前乳幼児	332	33
2	小学生	423	41
3	中学生	264	26
	計	1019	100

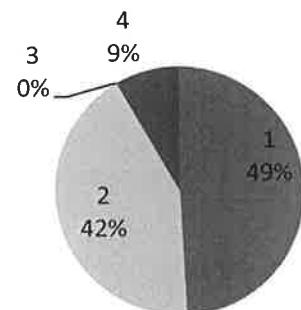
【問1】④子どもの種別



【問2】①小学校の希望学級数

No.	カテゴリ	件数	%
1	2学級以上	374	49
2	1学級	322	42
3	複式学級	0	0
4	無回答	64	9
	計	760	100

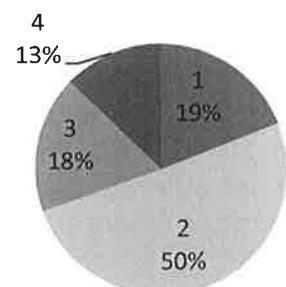
【問2】①小学校学級数



【問2】①中学校の希望学級数

No.	カテゴリ	件数	%
1	3学級以上	145	19
2	2学級	384	50
3	1学級	134	18
4	無回答	97	13
	計	760	100

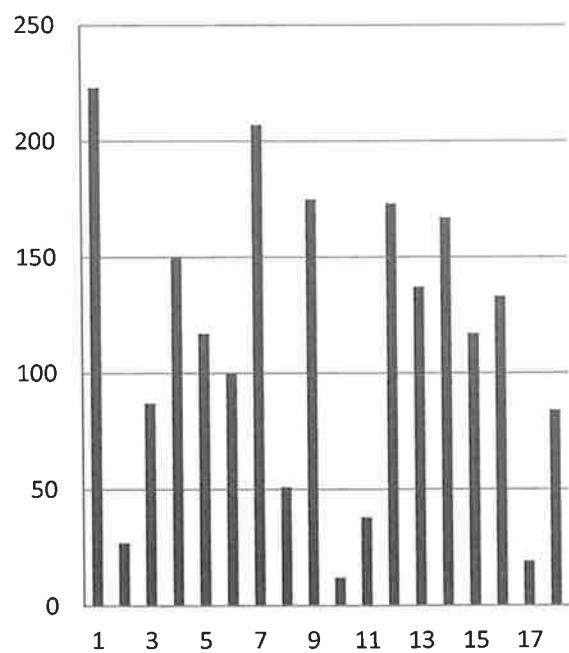
【問2】①中学校学級数



【問2】②①の回答理由(小学校)

No.	カテゴリ	件数	%
1	ゆとりある教育が受けられる	223	11
2	部活動選択の幅が広がる	27	1
3	活動機会がたくさんある	87	4
4	競争意識が働き高め合える	150	7
5	多様な学習活動が展開できる	117	6
6	子どもの活躍の場ができる	100	5
7	教員に一人一人見てもらえる	207	10
8	多くの教員に関わる事ができる	51	3
9	個別の対応がよくできる	175	9
10	専門教科先生に教わる機会が増る	12	1
11	異学年の友達ができる	38	2
12	多様な沢山の友達ができる	173	9
13	子ども同士が親密になれる	137	7
14	友達関係が固定化されない	167	8
15	なじみの友達と安心して生活できる	117	5
16	協調性を養う機会に恵まれる	133	7
17	その他	19	1
18	無回答	84	4
	計	2017	100

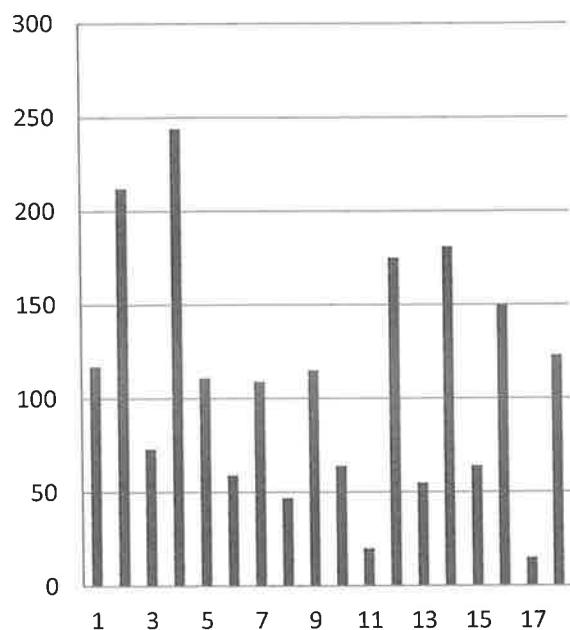
【問2】②①の回答理由(小学校)



【問2】②①の回答理由(中学校)

No	カテゴリ	件数	%
1	ゆとりある教育が受けられる	117	6
2	部活動選択の幅が広がる	212	11
3	活動機会がたくさんある	73	4
4	競争意識が働き高めえる	244	13
5	多様な学習活動が展開できる	111	6
6	子どもの活躍の場ができる	59	3
7	教員に一人一人見てもらえる	109	6
8	多くの教員に関わる事ができる	47	2
9	個別の対応がよくできる	115	6
10	専門教科先生に教わる機会が増る	64	3
11	異学年の友達ができる	20	1
12	多様な沢山の友達ができる	175	9
13	子ども同士が親密になれる	55	3
14	友達関係が固定化されない	181	9
15	なじみの友達と安心して生活できる	64	3
16	協調性を養う機会に恵まれる	150	8
17	その他	15	1
18	無回答	123	6
計		1934	100

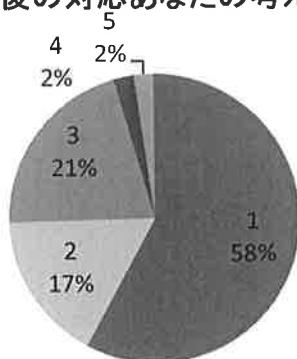
【問2】②①の回答理由(中学校)



【問3】今後の対応であなたの考えに近いもの

No	カテゴリ	件数	%
1	現行の学校配置でよい	440	58
2	小規模校を対象に統合	127	17
3	全学校対象に見直し	159	21
4	その他	17	2
5	無回答	17	2
計		760	100

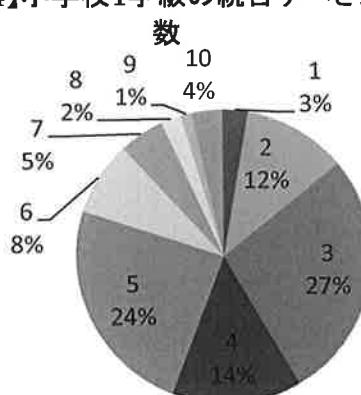
【問3】今後の対応あなたの考え方



【問4】小学校1学級で何人以下だと統合すべきか

No	カテゴリ	件数	%
1	1人のみ	21	3
2	3人以下	87	12
3	5人以下	208	27
4	7人以下	109	14
5	10人以下	183	24
6	15人以下	62	8
7	20人以下	38	5
8	30人以下	17	2
9	その他	9	1
10	無回答	26	4
計		760	100

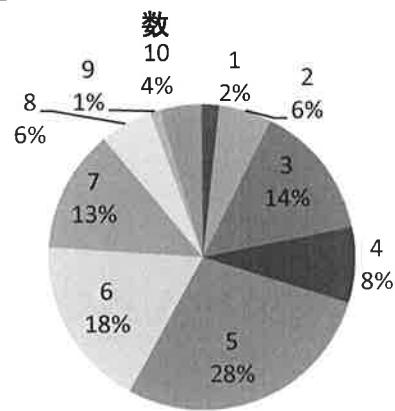
【問4】小学校1学級の統合すべき人数



**【問5】中学校1学級で何人以下だと統合すべきか**

No.	カテゴリ	件数	%
1	1人のみ	14	2
2	3人以下	43	6
3	5人以下	109	14
4	7人以下	61	8
5	10人以下	214	28
6	15人以下	137	18
7	20人以下	99	13
8	30人以下	42	6
9	その他	8	1
10	無回答	33	4
	計	760	100

**【問5】中学校1学級の統合すべき人**

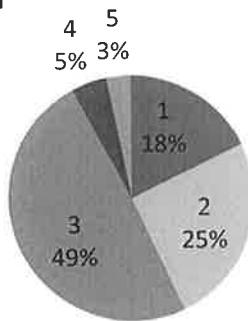


※以下は、統廃合を経験した通学区域の方のみ回答

**【問6】統廃合されたことにどう思うか**

No.	カテゴリ	件数	%
1	良かった	38	18
2	どちらかと言えば良かった	54	25
3	どちらとも言えない	105	49
4	どちらかと言えば良くなかった	10	5
5	良くなかった	7	3
6	無回答(該当者以外含む)	546	
	計	760	100

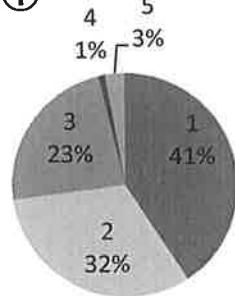
**【問6】**



**【問7】①様々な個性を持つ多くの友達と触れ合っている**

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	86	41
2	イ. どちらかと言えばそう思う	68	32
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	49	23
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	2	1
5	オ. そう思わない	6	3
6	無回答(該当者以外含む)	549	
	計	760	100

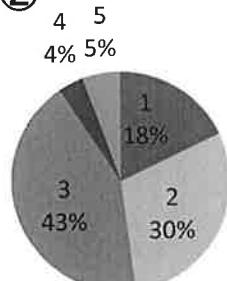
**【問7】①**



**【問7】②競争心が芽生え学習意欲が高まった**

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	38	18
2	イ. どちらかと言えばそう思う	64	30
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	91	43
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	8	4
5	オ. そう思わない	12	5
6	無回答(該当者以外含む)	547	
	計	760	100

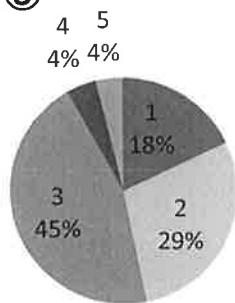
**【問7】②**



【問7】③規模が大きくなり社会性を身につける機会に恵まれた

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	38	18
2	イ. どちらかと言えばそう思う	61	29
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	95	45
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	9	4
5	オ. そう思わない	8	4
6	無回答(該当者以外含む)	549	
	計	760	100

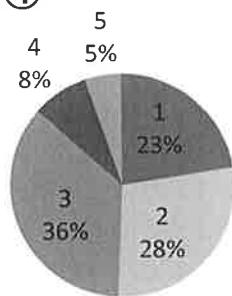
【問7】③



【問7】④規模が大きくなり色々な役割分担を経験できる

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	47	23
2	イ. どちらかと言えばそう思う	59	28
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	75	36
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	17	8
5	オ. そう思わない	11	5
6	無回答(該当者以外含む)	551	
	計	760	100

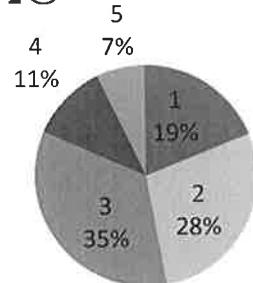
【問7】④



【問7】⑤運動会などで子どもの活動の幅が広がった

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	40	19
2	イ. どちらかと言えばそう思う	60	28
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	73	35
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	24	11
5	オ. そう思わない	15	7
6	無回答(該当者以外含む)	548	
	計	760	100

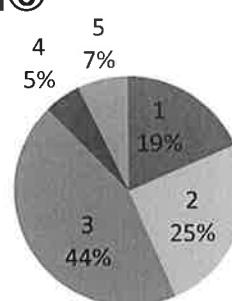
【問7】⑤



【問7】⑥友達が増え子どもが活発になった

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	39	19
2	イ. どちらかと言えばそう思う	53	25
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	93	44
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	11	5
5	オ. そう思わない	15	7
6	無回答(該当者以外含む)	549	
	計	760	100

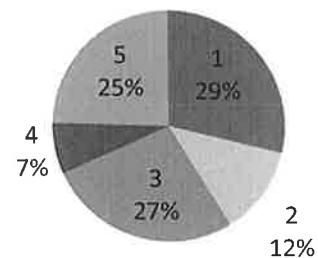
【問7】⑥



**【問7】⑦遠距離通学となり登下校の安全が心配**

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	60	29
2	イ. どちらかと言えばそう思う	26	12
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	56	27
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	15	7
5	オ. そう思わない	51	25
6	無回答(該当者以外含む)	552	
	計	760	100

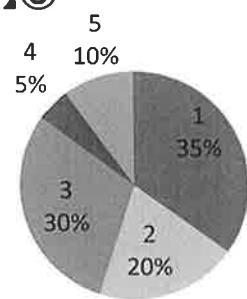
**【問7】⑦**



**【問7】⑧学校がなくなり地域の活気がなくなった**

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	73	35
2	イ. どちらかと言えばそう思う	42	20
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	63	30
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	10	5
5	オ. そう思わない	21	10
6	無回答(該当者以外含む)	551	
	計	760	100

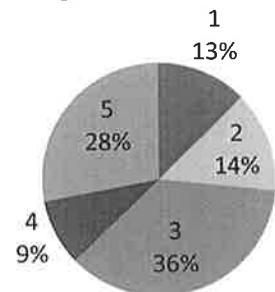
**【問7】⑧**



**【問7】⑨学校との距離が遠くなり学校への関心が薄くなった**

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	26	13
2	イ. どちらかと言えばそう思う	29	14
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	75	36
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	19	9
5	オ. そう思わない	58	28
6	無回答(該当者以外含む)	553	
	計	760	100

**【問7】⑨**

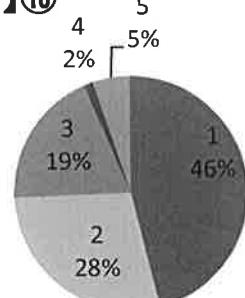


※以下は、統廃合に伴いスクールバス通学となった方のみ回答

**【問7】⑩バス通学となり登下校の安全が確保された**

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	36	46
2	イ. どちらかと言えばそう思う	22	28
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	15	19
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	1	2
5	オ. そう思わない	4	5
6	無回答(該当者以外含む)	682	
	計	760	100

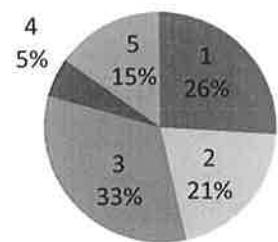
**【問7】⑩**



【問7】⑪バス通学となり今までより規則正しい生活ができる

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	19	26
2	イ. どちらかと言えばそう思う	15	21
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	24	33
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	4	5
5	オ. そう思わない	11	15
6	無回答(該当者以外含む)	687	
	計	760	100

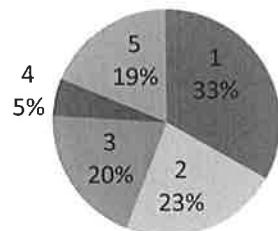
【問7】⑪



【問7】⑫バス通学となり体力の低下が心配

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	25	33
2	イ. どちらかと言えばそう思う	17	23
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	15	20
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	4	5
5	オ. そう思わない	14	19
6	無回答(該当者以外含む)	685	
	計	760	100

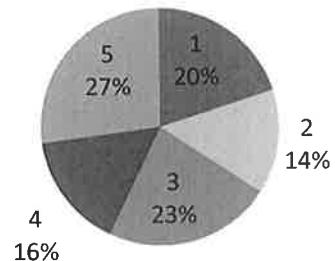
【問7】⑫



【問7】⑬バス通学となり時間的規制がかかり自由時間が減った

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	14	20
2	イ. どちらかと言えばそう思う	10	14
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	16	23
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	11	16
5	オ. そう思わない	19	27
6	無回答(該当者以外含む)	690	
	計	760	100

【問7】⑬



## 【資料18】

### 町立小中学校統廃合に関するアンケート調査（高校生用）

#### －ご協力をお願いします－

高校生の皆さんには、日頃から隠岐の島町の教育行政に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、隠岐の島町では少子化による児童・生徒の減少から、教育効果の図れる小中学校の在り方を考える「町立小中学校規模適正化検討委員会」を立ち上げ、検討を始めました。その資料にするため、以前に小中学校の統廃合を経験された高校生の皆さんにアンケート調査のご協力をお願いすることといたしました。

お忙しいところ、誠に申し訳ありませんが、調査の目的・趣旨をご理解の上、率直なご意見をお聞かせ頂きますようお願いいたします。

なお、勝手ながらアンケート用紙を 9月11日（金） までに担任の先生まで提出をお願いします。

平成27年9月

隠岐の島町教育委員会

対象となる生徒は、平成19年4月に統廃合となった学校（下西小、今津小、加茂小）、及び平成22年4月に統廃合となった学校（飯田小、大久小、中村小、布施小、那久小、中村中、布施中）で統廃合を経験した在校生の方にお聞きします。

次の各問について、あてはまる答えの番号に○をつけてください。

【問1】 学校が統廃合されたことについて、どのように思われますか。

1. 良かった
2. どちらかと言えば良かった
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えば良くなかった
5. 良くなかった

【問2】 以下の①～⑬の項目について、学校統廃合前と比べて統廃合後の新しい学校の状況は、どのように思われましたか。次の選択肢ア～オから該当するものを選び、（ ）に記入してください。

- (選択肢) ア. そう思う  
イ. どちらかと言えばそう思う  
ウ. どちらとも言えない・分からない  
エ. どちらかと言えばそう思わない  
オ. そう思わない

- ① 様々な個性を持つ多くの友達と触れ合うことができた。 ( )
- ② 良い意味で競争心が芽生え、学習意欲が高まった気がする。 ( )
- ③ 学級規模が大きくなり、社会性を身につける機会に恵まれた。 ( )
- ④ 学校規模が大きくなり、色々な役割分担を経験できた。 ( )
- ⑤ 運動会や学習発表会において、自分の活動の幅が広がった。 ( )
- ⑥ 友達が増えたことにより、自分が活発になった気がする。 ( )
- ⑦ 遠距離通学となり、登下校の安全が心配であった。 ( )
- ⑧ 地域の核となる学校がなくなり、地域の活気がなくなった気がする。 ( )
- ⑨ 学校との距離が遠くなり、学校への関心が薄くなかった。 ( )

(以下は、統合に伴い新たにスクールバス通学となった方のみ回答願います。)

- ⑩ スクールバス通学となり、登下校の安全が確保されていた。 ( )
- ⑪ スクールバス通学となり、以前より規則正しい生活ができた。 ( )
- ⑫ スクールバス通学となり、体力の低下があった。 ( )
- ⑬ スクールバス通学となり、時間的規制がかかり自由な時間が減った。 ( )

\*学校統廃合を経験され、良かったことや悪かったことがありましたら、  
自由に記入をお願いします。

◎アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

【資料19】

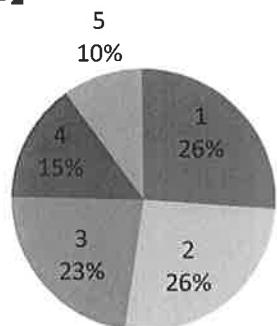
町立小中学校統廃合に関するアンケート調査結果集計表(高校生)

アンケート回答数		
No	カテゴリ	枚数
1	配布数	
2	回答数	61

【問1】統廃合されたことにどう思うか

No	カテゴリ	件数	%
1	良かった	16	26
2	どちらかと言えば良かった	16	26
3	どちらとも言えない	14	23
4	どちらかと言えば良くなかった	9	15
5	良くなかった	6	10
6	無回答(該当者以外含む)	0	0
	計	61	100

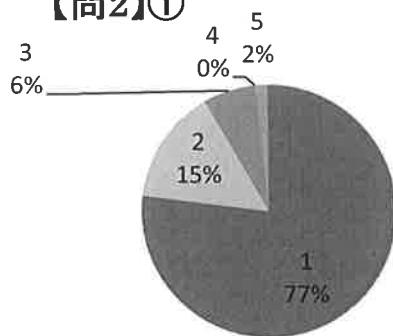
【問1】



【問2】①様々な個性を持つ多くの友達と触れ合っている

No	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	47	77
2	イ. どちらかと言えばそう思う	9	15
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	4	6
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	0	0
5	オ. そう思わない	1	2
6	無回答(該当者以外含む)	0	0
	計	61	100

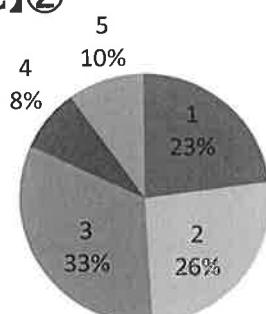
【問2】①



【問2】②競争心が芽生え学習意欲が高まった

No	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	14	23
2	イ. どちらかと言えばそう思う	16	26
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	20	33
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	5	8
5	オ. そう思わない	6	10
6	無回答(該当者以外含む)	0	0
	計	61	100

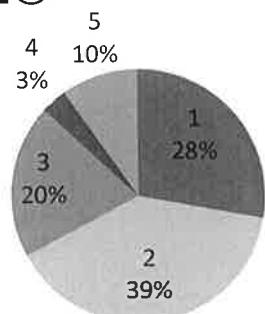
【問2】②



【問2】③規模が大きくなり社会性を身につける機会に恵まれた

No	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	17	28
2	イ. どちらかと言えばそう思う	24	39
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	12	20
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	2	3
5	オ. そう思わない	6	10
6	無回答(該当者以外含む)	0	0
	計	61	100

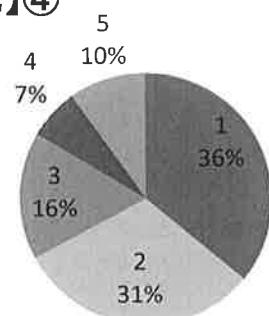
【問2】③



【問2】④規模が大きくなり色々な役割分担を経験できる

No	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	22	36
2	イ. どちらかと言えばそう思う	19	31
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	10	16
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	4	7
5	オ. そう思わない	6	10
6	無回答(該当者以外含む)	0	0
	計	61	100

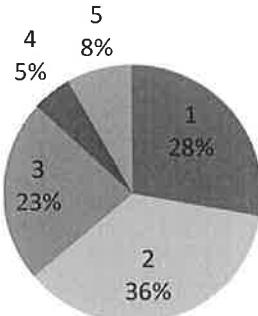
【問2】④



【問2】⑤運動会などで子どもの活動の幅が広がった

No	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	17	28
2	イ. どちらかと言えばそう思う	22	36
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	14	23
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	3	5
5	オ. そう思わない	5	8
6	無回答(該当者以外含む)	0	0
	計	61	100

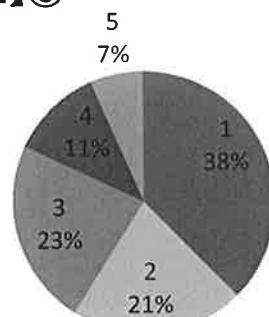
【問2】⑤



【問2】⑥友達が増え子どもが活発になった

No	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	23	38
2	イ. どちらかと言えばそう思う	13	21
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	14	23
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	7	11
5	オ. そう思わない	4	7
6	無回答(該当者以外含む)	0	0
	計	61	100

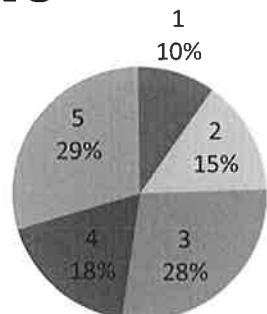
【問2】⑥



【問2】⑦遠距離通学となり登下校の安全が心配

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	6	10
2	イ. どちらかと言えばそう思う	9	15
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	17	28
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	11	18
5	オ. そう思わない	18	29
6	無回答(該当者以外含む)	0	0
	計	61	100

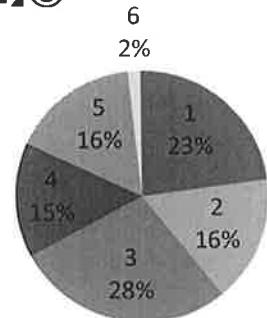
【問2】⑦



【問2】⑧学校がなくなり地域の活気がなくなった

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	14	23
2	イ. どちらかと言えばそう思う	10	16
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	17	28
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	9	15
5	オ. そう思わない	10	16
6	無回答(該当者以外含む)	1	2
	計	61	100

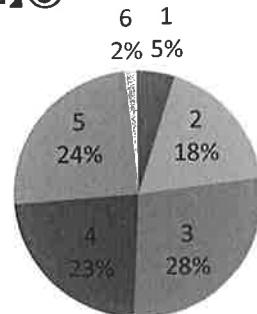
【問2】⑧



【問2】⑨学校との距離が遠くなり学校への関心が薄くなった

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	3	5
2	イ. どちらかと言えばそう思う	11	18
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	17	28
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	14	23
5	オ. そう思わない	15	24
6	無回答(該当者以外含む)	1	2
	計	61	100

【問2】⑨

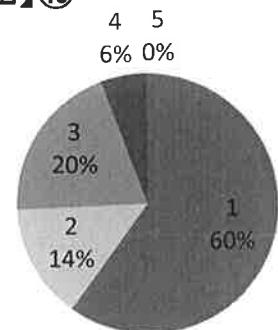


※以下は、統廃合に伴いスクールバス通学となった方のみ回答

**【問2】⑩**

【問2】⑩バス通学となり登下校の安全が確保された

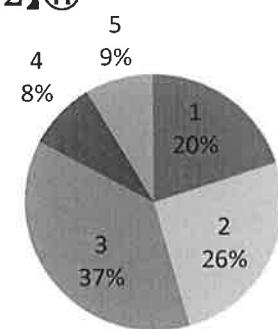
No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	21	60
2	イ. どちらかと言えばそう思う	5	14
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	7	20
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	2	6
5	オ. そう思わない	0	0
6	無回答(該当者以外含む)	26	
	計	61	100



**【問2】⑪**

【問2】⑪バス通学となり今までより規則正しい生活ができる

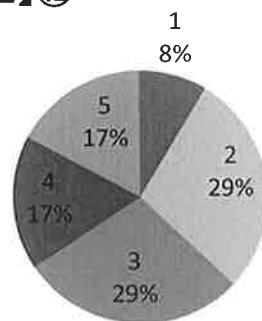
No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	7	20
2	イ. どちらかと言えばそう思う	9	26
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	13	37
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	3	8
5	オ. そう思わない	3	9
6	無回答(該当者以外含む)	26	
	計	61	100



【問2】⑫バス通学となり体力の低下が心配

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	3	8
2	イ. どちらかと言えばそう思う	10	29
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	10	29
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	6	17
5	オ. そう思わない	6	17
6	無回答(該当者以外含む)	26	
	計	61	100

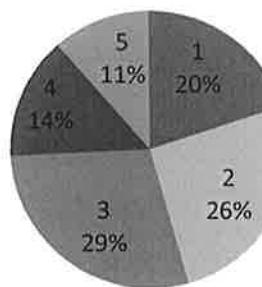
**【問2】⑬**



【問2】⑭バス通学となり時間的規制がかかり自由時間が減った

No.	カテゴリ	件数	%
1	ア. そう思う	7	20
2	イ. どちらかと言えばそう思う	9	26
3	ウ. どちらとも言えない・分らない	10	29
4	エ. どちらかと言えばそう思わない	5	14
5	オ. そう思わない	4	11
6	無回答(該当者以外含む)	26	
	計	61	100

**【問2】⑮**



【資料20】

学校統廃合等に関する学校説明会及び地区懇談会 参加者数

No	会議名	日時	会場	参加人数	備考
1	磯小学校説明会	10月15日（木） 15:00～15:15	磯小学校	40	
2	都万小学校説明会	10月20日（火） 13:55～14:15	都万小体育館	37	
3	都万中学校説明会				
4	北小学校説明会	10月29日（木） 19:00～19:30	北小学校	7	
5	西郷南中学校説明会	11月1日（日） 15:00～15:20	西郷南中学校	24	
6	有木小学校説明会	11月5日（木） 15:10～15:30	有木小学校	8	
7	中条小学校説明会	11月14日（土） 15:30～	中条小学校	35	
8	五箇中学校説明会	11月15日（日） 13:20～13:50	五箇中学校	8	
9	西郷小学校説明会	11月17日（火） 13:40～14:20	西郷小学校	15	
10	西郷中学校説明会	11月19日（木） 15:00～15:15	西郷中学校	13	
11	五箇小学校説明会	11月29日（日） 11:45～12:00	五箇小学校	65	
学校説明会 参加者計				252	
12	都万地区懇談会	11月20日（金） 19:30～21:00	都万保健センター	30	
13	五箇地区懇談会	11月25日（水） 19:30～21:00	五箇生涯学習センター	29	
地区懇談会 参加者計				59	

## 【資料21】

### ～複式学級について～

#### ■複式学級とは、どんな学級？

児童又は生徒の数が著しく少ない場合、数学年の児童又は生徒を1学級に編制することができます。このような学級を複式学級と言います。

【法的根拠：公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定位数の標準に関する法律（以下「標準法」という）】

1学級の児童又は生徒の数の基準は、標準法で示す数を標準として、都道府県の教育委員会が定めることとされ、島根県教育委員会では以下のようにしています。

- 中学校・・・特別支援学級を除き、法律で示された基準の生徒数8人以下であってもすべて「単式学級」として編制する。(島根県独自)
- 小学校・・・複式学級の児童数は16人以下(第1学年を含む学級は8人以下)すべて1・2年、3・4年、5・6年の組み合わせで編成する。(島根県独自)

#### ■島根県の複式学級を有する小学校の状況は、この10年で大きく変化しています

これまで、島根県の複式学級を有する小学校数は、90～100校の間で安定して存在していました。しかし、ここ10年で複式学級を有する小学校が30校近く減少しています。

◎島根県には69校、全小学校数の32%の複式学級を有する小学校があります。(平成26年度)

	松江管内	出雲管内	浜田管内	益田管内	隠岐管内	合計
複式学級を有する小学校数	9	27	17	13	3	69
小学校総数	52	72	53	27	11	215
複式学級を有する小学校の割合	17%	33%	32%	48%	27%	32%

近年、児童数の減少により、単式学級から複式学級になったり、欠学年が生じて単式学級になったりすることが多く見られます。また、単複を繰り返す学校もあるため、異教科指導や同教科異単元指導、同教科同単元異内容指導（以下「学年別指導」という）による指導が必要となっていました。

島根県では、算数以外の学年別指導は、これまであまり研究されていません。

## ■ 隠岐の島町立学校での複式学級の指導状況

最近の教育事情によりこれまで可能だったいわゆるA・B年度方式のカリキュラム（島根県方式）を複式になる前後で実施していたことが、不可能になった（完全複式校は可能）。これまでの複式教育と違い、ほとんどの教科が、教員が一つの教室で学年それぞれ違う学習内容を指導する「わたり」の授業になり、（島根県ではそれまで経験していないことで）教員の負担は非常に大きく、何らかの校内措置を講じるしか方法が無くなる。それによって教頭の持ち時数が増えるなど学校運営に大きな支障をきたすことになる。島根県の現状は、教職員定数法の問題や、その加配には多くの県費が必要になること等からそのための加配はなされていない。

### ① 「わたり」授業の様子

一つの教室、二つの学年、二つの内容で一人の教員がそれを「わたって」指導すること。



### ② A・B年度のカリキュラム＝2学年の学習内容を編成し直し、2年間で内容が履修できるようにしたもの。

（複式学級になる基準＝2つの学年で16名以内）

ア、隔年で単式・複式を繰り返す学級のカリキュラム例（旧島根方式）

H28年度学年	H27年度	H28年度（複式）	H29年度
現6年生 6人	単式 A年度内容	複式学級（15人）	中学校へ
現5年生 9人	単式 A年度内容	B年度を同時に	単式 6年内容
現4年生 8人	単式 A年度内容	複式学級（16人）	単式 5年内容
現3年生 8人	単式 A年度内容	B年度を同時に	単式 4年内容
現2年生 10人	単式 1年内容	単式 2年内容	単式 3年内容

イ、隔年で単式・複式を繰り返す学級のカリキュラム（現在の方式）

H28年度学年	H27年度	H28年度（複式）	H29年度
現6年生 6人	5年時 5年内容	複式：各々の学年内容	中学校へ
現5年生 9人	4年時 4年内容	を担任が渡って指導	単式 6年内容
現4年生 8人	3年時 3年内容	複式 各々の学年内容	単式 5年内容
現3年生 8人	2年時 2年内容	を担任が渡って指導	単式 4年内容
現2年生 10人	単式 1年内容	単式 2年内容	単式 3年内容

アのような方式が可能な時でも、算数、書写はA・B年度のカリキュラムにせず「わたりの授業」で行っていた。それだけでも、なかなか指導や準備は通常よりも大変になっていた。

イのような現在の方式では、殆どの教科で「わたり」授業をしなければならず、大きな負担となるため、教頭がどちらかの学年の指導に入る等の校内体制を取らねば、現在の教員の経験では困難である。その結果、学校運営は困難さが増していくことは、明らかである。

## ■他市町村での学校支援策の取組

例えば、邑南町では、「学習支援員・生活支援員」を複数配置したり、隠岐郡内の他町村では、各学校ごとに町単位の「学習支援員（教員免許保有者）」を公募・配置して、その運用を校長に任せていたりするところもある。